市民学芸員活動報告　平成25(2013)年9月　第5号

みはら玉手箱

市民学芸員各グループの活動状況報告

平成２５年度の市民学芸員実践講座が開講して、５ヶ月が経過しました。今年度も３つのグループで、精力的に活動しておりますので、近況をご報告いたします。

1.　収集グループ

以下の３つのテーマで、古写真や古資料を収集・整理中。

(ｲ)　「古写真でみる三原情景　volⅡ」の製作

昨年は、吉原写真館蔵の古写真を中心に冊子にまとめたが、今年度は、歴史民俗資料館蔵の古写真が中心。

(ﾛ)　宮本常一氏古写真の写真展の開催

宮本常一氏撮影の膨大な古写真の中から、三原近辺の作品を主体に、撮影場所の特定作業中。
来年1月頃、写真展を開催の予定。

(ﾊ)　山陽本線開通記念事業の紹介

明治27(1894)年6月10日、山陽鉄道（後の山陽本線）三原～広島間が開通した。来年平成26(2014)年6月10日は開通120周年に当たり、それを記念した写真展の準備作業中。

2. 情報発信グループ

三原市教育委員会生涯学習課ホームページの「みはら玉手箱」を担当し、６月に第４号、９月に第５号を発行済。

今後、12月に第６号、来年3月に第7号を発行の予定。

3.　体験グループ

(ｲ) 山城に登ろう

生涯学習課主催「三原ふるさと子ども博士講座（第Ⅱ期）」の開講式で、新高山城跡案内の支援をした。

(ﾛ) 城下町ウォーク

来年1月頃、子どもの参加も含めた城下町ウォーク開催を計画中。

(ﾊ) 子ども向け講座の開催

脳を活性化させる手法の一つとして懐かしい生活用具や遊び道具を活用する回想法が注目されている。

児童を対象にして、これらの懐かしい用具や遊びの体験講座開催を検討中。

新高山城跡案内の支援

各グループの分担テーマ

広報みはらの最終頁は、H25年度とH26年度の２年間、市民学芸員が担当します。

平成25年度の掲載予定	
４月号	エヒメアヤメ
５月号	三原城跡
６月号	秦森　康屯
７月号	久井の岩海
８月号	ちんこんかん
９月号	三原駅
１０月号	三原城下町（西町編）
１１月号	清水　南山
１２月号	三原の映画館
１月号	小早川隆景
２月号	神明市
３月号	三原の滝

　　色の着色テーマは、発表済。

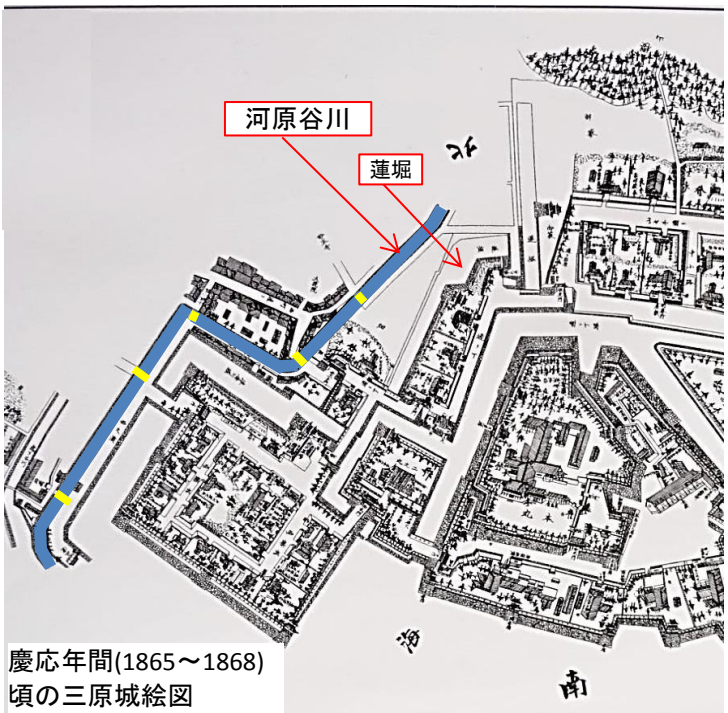
みはら　おもしろクイズ

（解答は次頁の最下段にあります）

消えた河原谷川の下流

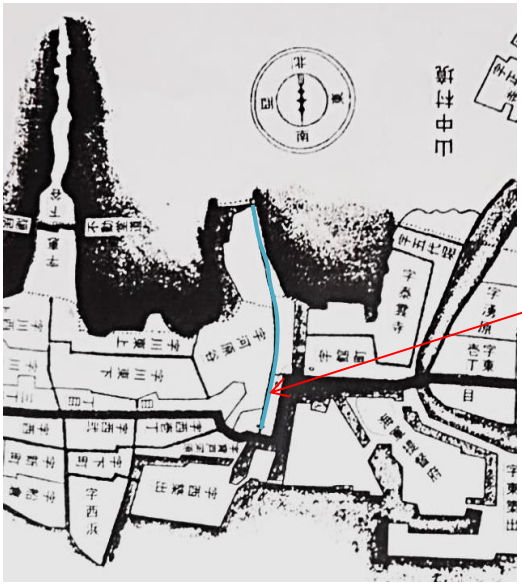
桜山の西、駒ヶ原を流れる河原谷川は、現在途中から暗渠になっているため瀬戸内海への出口をご存知ない方も多いと思います。この川の歴史を追ってみました。

1. 河原谷川の歴史



慶応年間(1865～1868)
頃の三原城絵図

［江戸時代は、現在の丸金橋近辺から西南方向に流れ、二回直角に曲がって西ノ濱の西側を通って瀬戸内海へ放出。］



明治9（1876）年の三原町絵図

［新しい町割りのため、明治初期に、現丸金橋部から蓮堀に落として、そのまま南下するルートに変更］

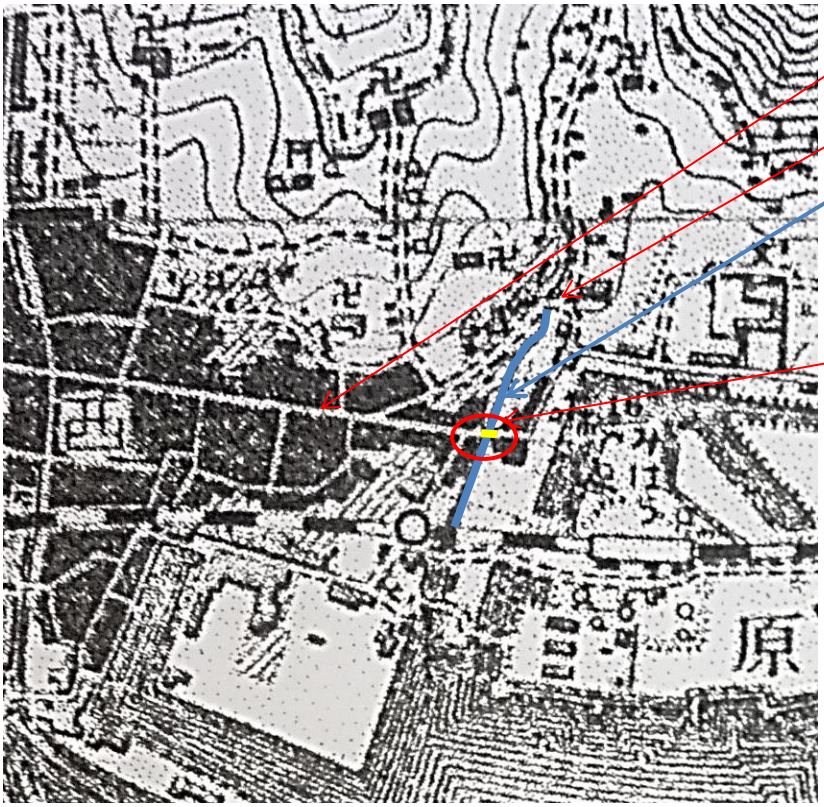
破線部は現在暗渠で帝人通りの歩道下を流れている

新しいルート
この頃は暗渠ではない

〔平成22年の三原駅近辺〕

［現在は、本町の消防団屯所部で暗渠となり帝人通りを通って、三原港北西隅に放出］

2. 開明橋の誕生



〔明治31年測量の地図…三原市史第3巻　第24図〕

明治時代、新ルートの河原谷川は暗渠でなかったので、現在の本町消防団屯所前に橋が架かり開明橋と命名された。

開明橋の名づけ親は、西町大善寺の戒全住職。

3. 現在の河原谷川下流

桜橋近辺から、本町消防団屯所方面を望む

三原港北西隅にある河原谷川出口

□部は帝人通りの歩道にある河原谷川暗渠のマンホール（約1.6m四方）

クイズ

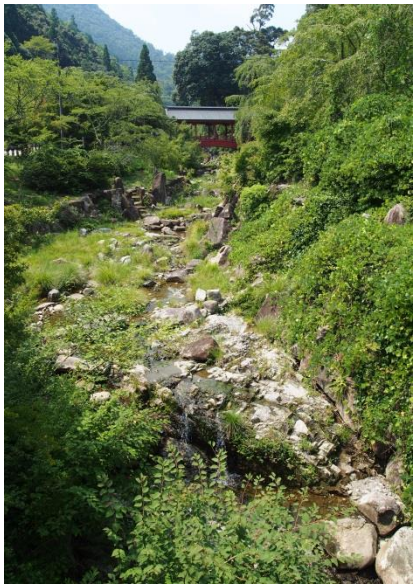
（1）開明橋跡の石柱があるのは、次のどこでしょうか
（ア）三原城天主台跡内
（イ）隆景広場内北西部

（2）帝人通りの歩道にある河原谷川暗渠のマンホールは、全部で何ヵ所あるでしょうか
（ア）2ヵ所　（イ）5ヵ所
（ウ）8ヵ所

クイズの解答　（1）（ア）　（2）（ア）

三　原　の　お　祭　り

御調八幡宮　秋季例祭



龍王山の懐から流れ出るやはた川の川沿いに、御調八幡宮は、備後国総鎮護として厳かに鎮座しています。古代の植生を今に伝え、広島県でも数少ない常緑広葉樹コジイの大木を有す天然林の社叢（しゃそう・鎮守の森）に抱かれ、はるか奈良時代から、この地に長い歴史を刻んできました。

現在では平成 8 年に県の防砂モデル事業として「やはた川自然公園」として整備され、水と緑の豊かな渓流公園に変わり、春はお花見、秋は紅葉狩りなど四季折々の魅力にあふれ、歴史・自然探訪や散策、ハイキング、キャンプなど、多くの市民に親しまれています。

ここ、御調八幡宮の秋季例祭が、毎年 11 月第 2 日曜日（今年は 11 月 10 日）に開催されます。祭りの次第は、まず初めに七五三祭、その後例祭が行われます。お昼には大庭で招福餅まきがあり、大勢の人で賑わいます。午後からは、神楽殿にて、今年で 11 回を数える「森林（もり）のコンサート」が開かれ、和太鼓演奏「八幡太鼓」の奉納や、オンリーハートコンサートなどが行われたり、同時に、大鳥居向いの四社前では、上田宗箇流大松社中による立礼席（ぼてぼて茶）が設けられる予定です。こうして、爽やかな秋の佳き日、紅葉色鮮やかな森林の古社にて、祭りは粛々と、そして和やかに執り行われます。

さて、この神社の創祀には、悲しくて美しい姉弟愛の物語があります。姉を和気広虫（わけのひろむし）、弟を和気清麻呂（わけのきよまろ）と言います。ふたりは美作の豪族和気氏の子女で、大和朝廷に出仕していました。時は奈良時代後半、平城京という立派な都ができたものの、中央政権は政情不安定、人々も疲弊困窮していました。誠実で慈愛深い姉広虫は、時の天皇（女帝）称徳天皇に仕えていました。その当時、天皇の寵愛を受けて権勢を振るう僧・道鏡は自らの帝位を望み、宇佐八幡の神から「自分を皇位につけたら天下泰平になる」という神託が出たと言いました。それを確かめに、法均（ほうきん・広虫の出家後の名）の代わりに清麻呂が天皇の命を受けて宇佐八幡に向かい、その神託は嘘だということを暴きました。それに怒った道鏡は、清麻呂を穢麻呂とし大隅国へ、法均を還俗させ備後の国へ流罪にしたのです。悲痛な思いを抱え、広虫は三原で船を下り、御調坂（みとさか）を越えて御調八幡の地に来られました。そうしてここに留まり、斉戒沐浴、持っていた円鏡を御神体として宇佐八幡大神を勧請し、弟、清麻呂のいわれなき罪をそそぎ、身の潔白を明かすため、一身に祈願されたのです。

御調八幡宮と三原市の文化財展

日時　：9 月 7 日～10 月 6 日
　　10 時～18 時/17 時（八幡宮）
入場料：大人 800 円大学生 500 円
　　高校生以下無料
問合せ：三原市教育委員会
　　生涯学習課　☎0848-64-2137

この御調八幡宮には、奈良時代から伝わる木造神像や、平安時代以来の行道面（ぎょうどうめん・仏像を奉じて練り歩くときの面）など多くの秘宝が伝わっています。このたび当宮収蔵庫と三原リージョンプラザの 2 会場で、「御調八幡宮と三原市の文化財展」が開催されますが、御神像7躰が揃って公開されるのは、三原市にとって初めてのことです。詳しくはチラシをご覧のうえ、この機会に是非、拝観をおすすめします。

石碑が語る三原の歴史

糸崎は万葉の昔から潮待ち、風待ちの重要な港として栄えてきました。みはら玉手箱第５号では木原・糸崎地域について、旧西国街道に沿っての道標、記念碑、歌碑を探ってみました。

道　標

〔鉢ケ峰　虚空蔵への道標〕

三原市木原赤石の旧国道の線路脇に鉢ケ峰の虚空蔵への道標があります。

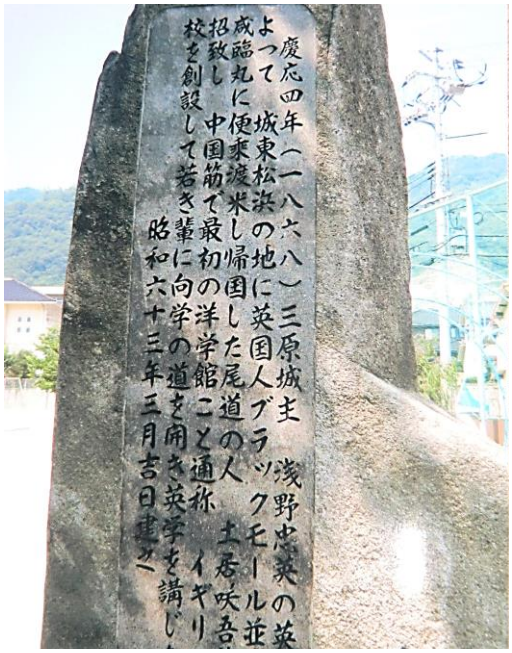
正面には「鉢ケ峰　虚空蔵工　一粁五〇〇米　吉和　岡田　」左面には「糸崎駅工　三粁四四〇米」右面には「尾道駅工　四粁五二〇米」と刻まれていますが、設置の年号は書かれていません。

小早川隆景の沼田小早川相続に反対し、誅殺された田坂善慶の子息、田坂頼賀の墓がある木原観音寺の奥ノ院である鉢ケ峰の虚空蔵は、４月の第２日曜日の大祭には多くの参詣者で賑わいます。虚空蔵境内にある開基の法道上人の墓に水をかけ、その水を頭に付けると頭が良くなるといわれています。

法道上人が修行している時、米がなくなると鉢が沖の船に飛んでいき喜捨を受けました。或る時、船頭が干鰯（ほしか）を入れると、鉢が船の上をくるりと回り、船が沈んだとの伝説があります。

道標の設置された時期は不明ですが、駅までの距離が書かれているので、山陽鉄道が開通した明治２５（１８９２）年以降と考えられ、米（メートル）で書かれていることは当時画期的なものだったでしょう。

記念碑



〔前面〕　　〔裏面〕

〔三原洋学所発祥記念碑〕

糸崎小学校の校庭に、藤田正明元参議院議長の揮毫による「洋学館発祥記念碑」があります。

高さ３２０cm、幅１００cm の碑が高さ８０cm の台座の上にたっています。

この洋学館は、正式の名は「三原洋学所」です。慶応４（１８６８）年に 12 代三原城主浅野忠英は勝海舟・福澤諭吉等と咸臨丸でアメリカに渡った尾道の医師土居咲吾を取締とし、英国人ブラックモール兄弟を招へいして、当時英語教授の学校としては中四国随一といわれた洋学所を糸崎松浜の地に創設し、英国式教練を行い、英語を教えました。

三原洋学所は明治維新の混乱期に広島へ移されました。松浜の地での教育は短期間でしたので、詳しい記録が残っていませんが、在学生では次の３名が有名です。

田坂虎之助　　現在の国土地理院の地図の設定者

呉　文聡　　統計学者で日本の国勢調査制度の創始者

渡　正元　　元老院議官、貴族員議員、欧州留学中に書いた「漫游日誌」は有名

三原洋学所が建てられた場所は松浜港の西辺りと推定されていますが特定されていません。また一帯は私有地であるため、記念碑は糸崎小学校の校庭に、三原市郷土を愛する会により昭和６３（１９８８）年に建てられました。

句碑・詩

〔万葉の歌碑〕

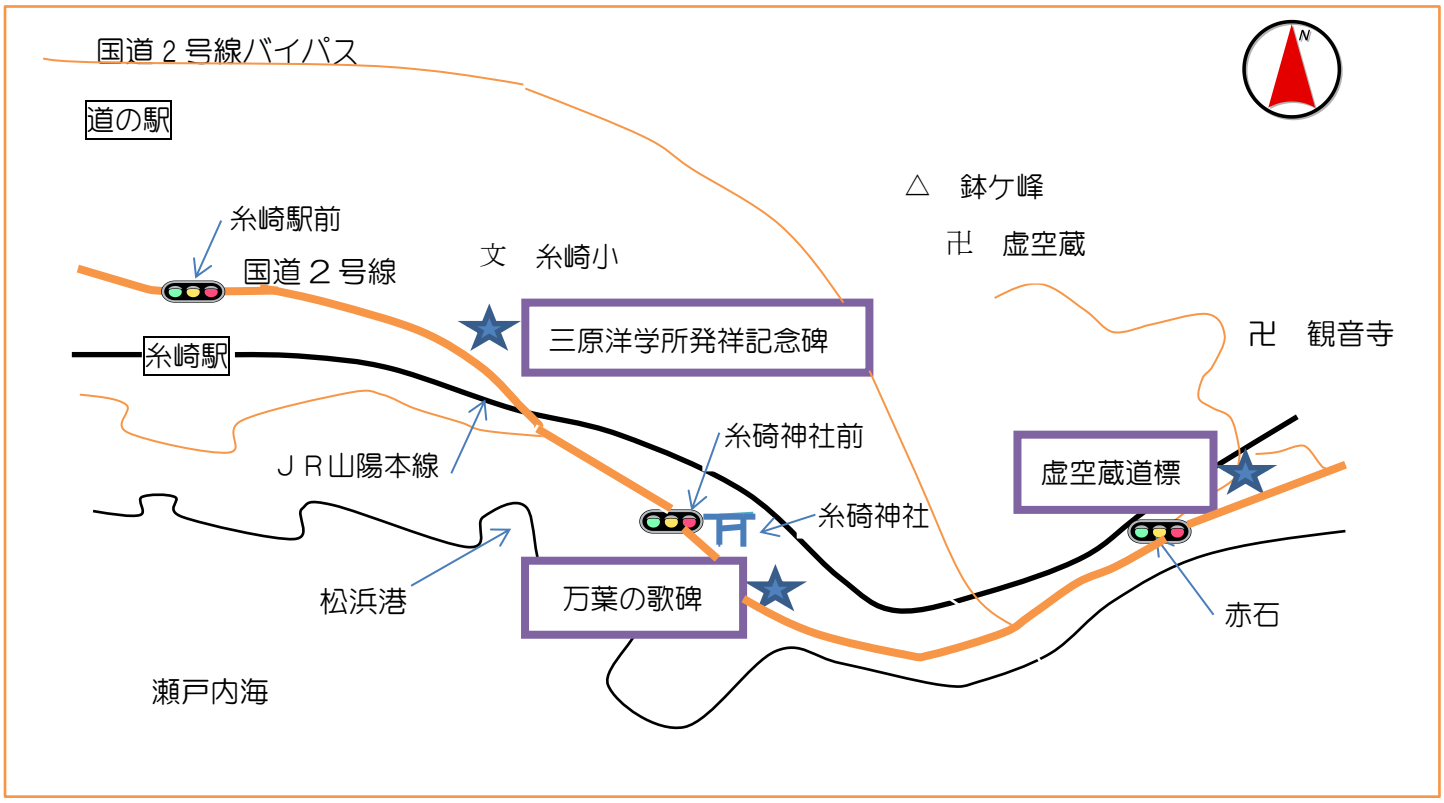
「万葉の歌碑」は糸碕神社の境内南にあり、高さ２７０cm、幅７０cm の碑が高さ１２０cm の台座の上にたっています。

碑文は「帰るさに、妹（妻）に見せんにわだつみの沖の白玉ひりいて（拾って）行かな」と万葉仮名で書かれています。「帰った時、愛する妻に見せるために、この綺麗な砂浜の白い貝を拾って行きたいものだ」との意味の望郷の歌です。

天平８（７３６）年に新羅への使節船が船泊りした時、「備後国水調郡長井浦船泊之夜作歌」三首として万葉集に載っているうちの一首で作者不詳です。

昭和４８（１９７３）年に三原市郷土を愛する会等により建てられました。碑文は日本大学森脇一夫教授が書かれたものです。

概略マップ

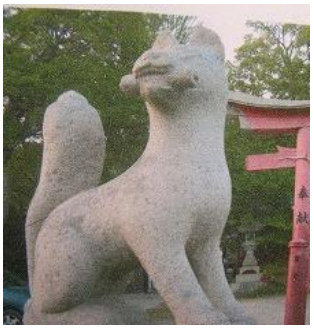


三原にある狛犬

今回は、本町・西宮町の狛犬を紹介します。

6．大島神社（稲荷）・厳島神社　　三原市本町３丁目

この両社は小早川隆景公のときは、三原城中の庭に祭っていましたが、福島正則公の時代に併せてこの地に移されました。



［巻物をくわえる吽形］

（単位：ｃｍ）

	高さ	幅	奥行
阿形	97.5	34.5	69
吽形	97	34	68
年代	文政13（1830）年 8月		
石工	不明		
石材	花崗岩		
型	お座り型		

［玉をくわえる阿形］

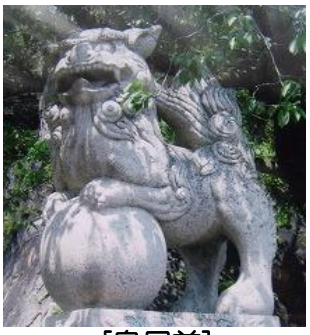
7．三原八幡宮（西宮神社）　　三原市西宮１丁目

１６世紀初め、西野村一帯の総氏神様として建てられた西宮神社は、小早川隆景公によって三原城下の西の守りとして、西野村大西谷から移されました。

［鳥居前］

（単位：ｃｍ）

	高さ	幅	奥行
阿形	128	78	43
吽形	128	78	43
年代	大正4（1915）年 8月		
石工	尾道市　新谷真助		
石材	花崗岩		
型	玉乗り型		



［鳥居前］

［山門前］

（単位：ｃｍ）

	高さ	幅	奥行
阿形	123	84	47
吽形	123	84	47
年代	文政12（1829）年		
石工	不明		
石材	花崗岩		
型	お座り型		

［山門前］

8．八阪神社　　三原市西宮２丁目

梅観橋の北、市立西小学校の西側に位置します。

（単位：ｃｍ）

	高さ	幅	奥行
阿形	85	70	40
吽形	85	70	40
年代	天保5（1839）年		
石工	不明		
石材	花崗岩		
型	玉乗り型		